

北穂高岳 滝谷第四尾根

【日時】 平成30年9月22～24日

【メンバー】 Y川 (L)、T

【概要】

9月22日(土) 雨のち晴れ

高山市外のローソン横広場で仮眠し、タクシーで7時前に上高地に入った。雨は本降りだが、晴れるとの予報を信じて歩き出す。横尾を過ぎて屏風岩の下を通過する頃、急速に天気は回復して見る見る青空が広がっていった。涸沢ヒュッテの屋根が見える頃は晴天となり、涸沢上部では紅葉が始まっている。昼食に名物のおでんをいただき、北穂南稜の急登に入る。ひたすら登って、17過ぎによりやくテン場に到着した。我々を入れて8張りで、静かな夜を過ごした。

上高地 7時8分発 涸沢 13時12分着 14時5分発 北穂テン場 (BC) 17時26分

9月23日(日) 晴れ

快晴の夜明けを迎え、北穂テン場からの眺めは一際美しかった。5時半にテン場を出発し、小屋に寄ってから南峰と北峰とのコルから滝谷に入る。西面に入ったとたん、冷たい風が変わった。小尾根を越え、がれがれの斜面を下り、落石があればひとたまりもないであろう狭い岩溝の中を慎重に下って行く。2回目の懸垂の前に先行者が居ることが分かり、少し間隔を空けて下ることとした。傾斜が緩むと二俣で、スノーコルヘトラバース気味に登って先行者に追いついた。涸沢 2時45分発だそうで、とにかく驚いた。

コルからは数mの立った岩場だがノーロープで問題なく、緩いリッジを辿るとフェースに行き当たりここでアンザイレンする。1ピッチ目は浮き石の多いフェースだが、上部は傾斜が強まる。そこを抜け、左の凹角を上がるとテラスでビレー点がある。2ピッチ目は、まず大まかなフェースでこれを抜けるとフェースを登ってリッジ上で終了。3PはAカンテを越えるが、特に難しくはない。4PはBカンテであり、資料によりグレードはIII~IV+とばらつくピッチであるが、登り方の差であろう。通称、「馬乗りカンテ」と呼ぶそうだが、馬乗りせずに登ってみる。確かにIV+はありそうに感じた。急なカンテ後も岩のリッジが続き、かなりの高度感である。5Pは易しいリッジで、Cカンテ手前のピークまで。6Pは、ピークから少し下ってCカンテ取り付きまで。7P目のCカンテは、最初右側、ついで左側に移るとホールドが多く快適である。8P目、ピナクル下の浮き石の多い凹角を約50mでコルまで。9Pはコルからフェースを左上し、立ったクラックを登ってツルムのピーク下まで。懸垂支点は左下で、そこ迄クライムダウンして後は20m弱の懸垂でツルムのコルへ。10P目からはDカンテの登りで、まずフェースを登った後にオフドゥスだが、中に体を入れなければさほど難しくはない。11P目、核心ピッチでカンテから小ハングを乗越して終了。後は草付きと岩の混じった容易な斜面を3ピッチ登って縦走路に出た。

全般に思ったよりも残置は多かったが、所々でカムは必要であり、寒さに対する対策も必須である。また、C沢左股の下降には細心の注意が必要である。Tさんの体調がもう一つ良くないとのことなので、涸沢まで下ることとする。残念ながら涸沢ヒュッテ売店の営業終了後に到着したため、おでんはおあずけとなった。

BC 5時30分 北穂小屋 5時45分 5時55分発 C沢左股下降開始 6時7分 スノーコル 8時18分 登攀開始 9時12分 終了 14時27分 BC 15時34分 16時5分発 涸沢 17時44分着

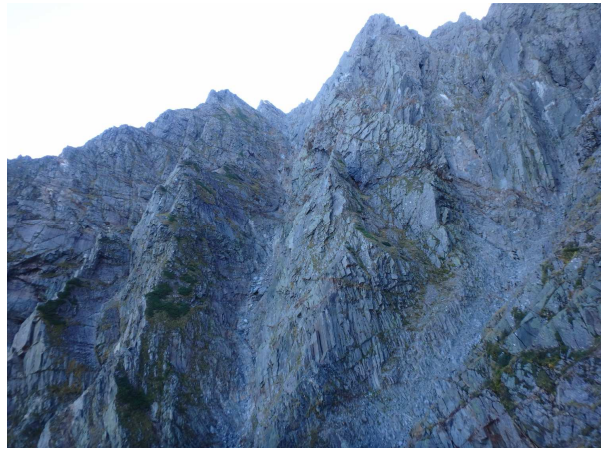
9月24日(月) 晴れ後曇り

朝焼けの涸沢カールは美しく、のんびりしていたくなるが悪天予報なので下山する。人が多く、渋滞が発生したが横尾手前からはストレス無く歩くことができた。徳沢園のコーヒーはさすがに美味しく、充実した山行であった。

涸沢 6時8分発 上高地 11時41分



C 沢左股の下降



C 沢左股と第3尾根～ドーム



ドーム～C 沢右俣奥壁～第4尾根



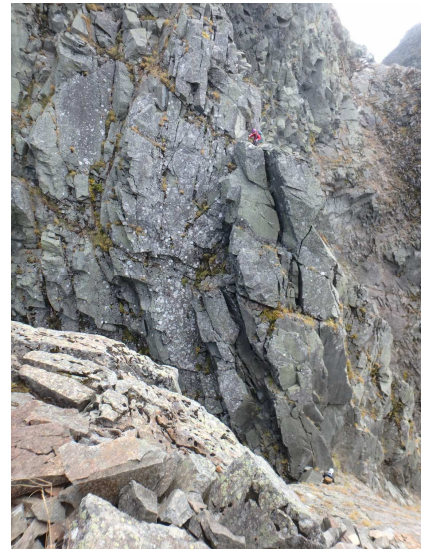
B カンテの登攀



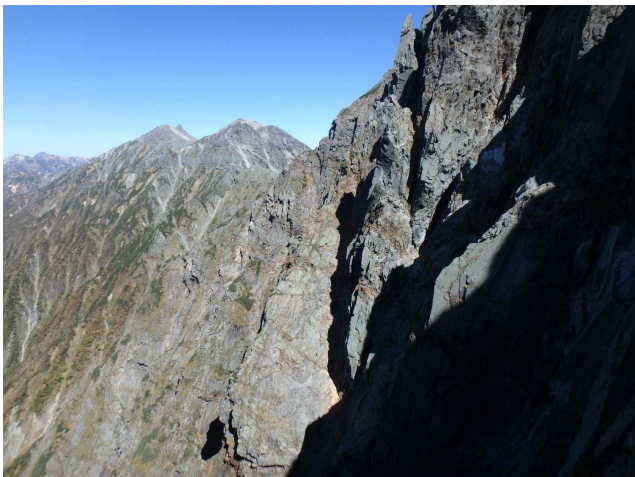
ツルム



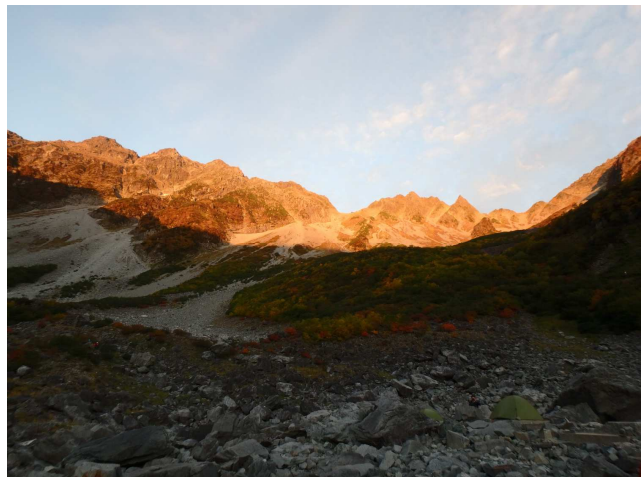
ピナクルと凹角



ツルムのコルからの登攀



槍ヶ岳を望む



涸沢カールの朝焼け